





上高地産屋沢の土石流災害
平成23年6月23日発生

上高地860人足止め
土石流 国道 峠道 通行止め

上高地土石流
泥水と巨石 2波3波
国土交通省職員目撃 バス止めた直後

全員無事「良かった」
上高地に足止め観光客ら

上高地周辺 復旧に全力

土砂撤去、仮設橋を設置

観光客 登山

国土交通省職員目撃 バス止めた直後

上高地に足止め観光客ら

上高地周辺 復旧に全力

葛温泉の豪雨災害（昭和44年8月）



被災前の葛温泉（昭和42年5月25日）



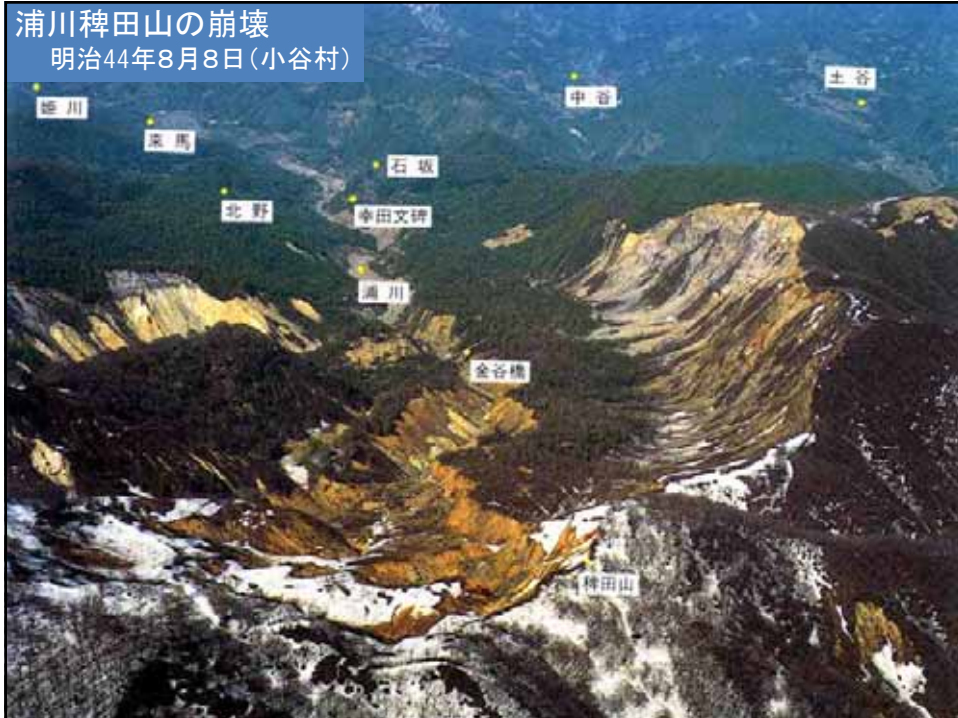
被災後（昭和44年8月22日）



現在

山本携拳氏撮影

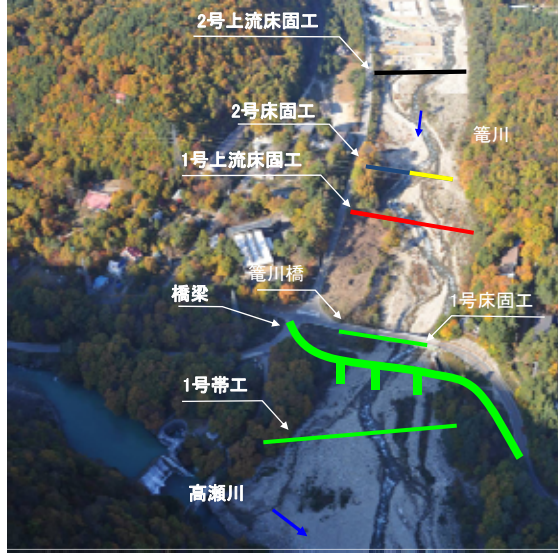
浦川稗田山の崩壊
明治44年8月8日（小谷村）



現在の砂防事業(その1)

籠川 日向山床固工群

直轄砂防
〔北陸地方整備局〕
松本砂防事務所



籠川道路の被災状況(S44)

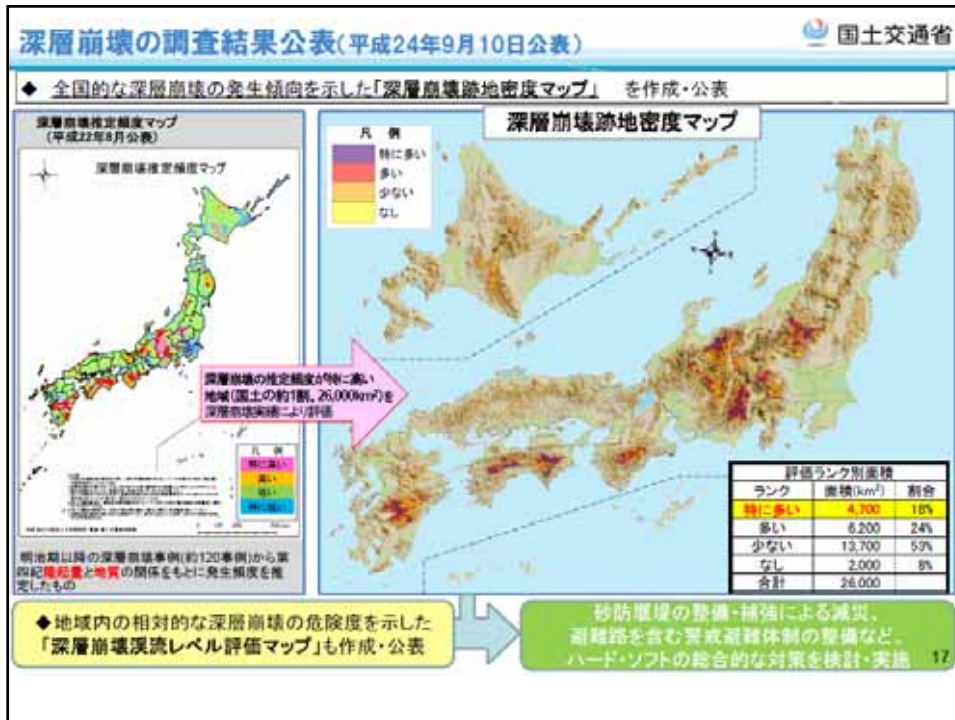
現在の砂防事業(その2)

鹿島川砂防林

直轄砂防
〔北陸地方整備局〕
松本砂防事務所



深層崩壊対策



大規模土砂災害に備えた監視観測体制の強化



表層崩壊
深層崩壊

（国土交通省防災技術資料による）

深層崩壊対策 北ア地域から

「起きやすさ」全国有数 国交省センサー整備へ

（信濃毎日） 2012年10月24日 4月26日 掲載

27日(金曜日) (中日新聞)

深層崩壊時に観測 北ア検知センサー設置へ

地震で土砂が崩れ、数分所経すると、北ア落ちる北アルプスのルプスでのセンサー設置「深層崩壊」を察知する。本年度的に把握するため、国土交から工事に入り、来年度に本格稼働を目指す。中野運用開始を目指す。二十六日発表し、検知センサーを備内にす。

設置場所は決まっていなかったが、三方所のセンサーで崩壊による振動を観測し、到達に要した時間を算出する。情報は光ケーブルで国土交通省の防災事務所に伝える。

深層崩壊の発生状況は、これまでペリコ

総合防災情報システムの整備




土石流観測施設



北本砂防事務所
通信無線系統図

● 土石流観測施設
● 防災無線施設
● 防災無線施設
● 防災無線施設



上高地インフォメーションセンター画面

防災教育の取組み（その1）

従来までの取組み

これまで、各地域において、出前講座や現地見学会を個別に実施。



今までの取組みでの課題

- ・地域主導での取組みに繋がらないため、継続的な取組みとならない。(熱意不足、担い手不足)
- ・専門家、技術職員の人手不足のため、講師が見つからない。

学習指導要領の改訂(H20)

- ・自然災害に対する学習の項目が大幅増加
- ・特に、地域の特性に応じた、適切な防災教育の実施が必要。

取組みにおけるポイント

- 土砂災害に関する研修・講習
研修・講習などの機会、取組み事例や副読本等の情報提供が必要。特に、継続的な取組みに対する工夫が重要。
- 小中学生が砂防防災教育に接する機会が少ない
総合的な学習時間における出前講座などの実施及び支援講師の確保
- 土砂災害に関する教材の充実
教科書への「土砂災害」記載の拡充、副読本・映像等の活用

防災教育の取組み（その2）

信濃毎日新聞（平成24年10月21日）

中日新聞（平成24年10月21日）

「稗田山崩れ」痕跡を見学
大北の高校教員 地域の災害学ぶ

小谷
大北地方の高校の社会科教師らが20日、北安曇郡小谷村で約60年前に起きた「稗田山崩れ」の痕跡や、崩れた土砂が今なお流入している龍川支流の「浦」帯を見学した。「深層崩壊」の危険性が注目される中、地元地元の注目を浴び、地元の災害学ぶ。

山崩れの痕跡(奥)を見学する社会科教師ら

多数の死者を出した。大量の土砂は龍川をせき止め、天然ダム崩壊により下流の集落をのみんだ。

以北「明治」深層崩壊」の研究 小谷の現場を視察 相模野の高校教師ら 大町 安曇野市や北安曇郡 国平 内の高校に勧められた。 現地 会場の社会科研究員は 八月に発生し、「二十三日 人が死亡した大規模な 山崩れ」(稗田山崩れ)の 現場を視察した。 龍川支流の浦川上流、 地元に訪れた。 中には稗田山崩れ 現場視察工事をする者も 者の間に熱心に見学 していた。

「深層崩壊」は毎年 社会科研究員は毎年 訪れ、崩壊の「種」を 地元の歴史に探る。 全開した大町北高校の 川上 神前教諭(右)は 「崩壊はありながらな かなか足元を踏まない場 所を訪れることができ て良かった。地域の災 害の歴史を正しく伝 えた」と話した。

(長野公報)

防災訓練の取組み

